

# 紀の川流域委員会ニュース No. 21

2011年10月27日（木）、第21回紀の川流域委員会が開かれました。



【第21回紀の川流域委員会の様子（和歌山市民会館）】

## ◆ニュース内容

- 議事骨子……………P1
  - ・紀の川水系河川整備計画（原案）の概要について……………P1
  - ・今後のスケジュールについて……………P3
  - ・一般傍聴者からの意見聴取……………P3
- 紀の川流域委員会について……………P4

## ● 議事骨子

第21回紀の川流域委員会の議事骨子は、次のとおりです。

平成23年10月27日

### 第21回紀の川流域委員会 議事骨子

委員長 中川博次

第21回紀の川流域委員会は10月27日（木）和歌山市民会館 市民ホールにおいて全委員16名中13名の出席のもと実施された。

紀の川河川整備計画（原案）についての審議に入る前に、以下の2件の説明があった。

- ① 「台風12号における紀の川の出水概要」について
- ② 「大滝ダム建設事業」について



## 1. 「紀の川水系河川整備計画(原案)の概要」について

- ・ 紀の川水系の概要
- ・ 河川整備の現状と課題
- ・ 河川整備計画の目標に関する事項
- ・ 河川の整備の実施に関する事項

それらの説明に対する主な意見は以下の通り。

⇒河川管理者回答

- ・危機管理対策については、夜間の監視や警報装置の音量を大きくするなどの対応が必要。  
⇒監視カメラの性能が向上してきており、夜間の監視も可能となってきた。  
また、警報装置の音量については、周辺住民への影響も考えながら適切に対応していきたい。
- ・大滝ダムや津風呂ダムなど管理者が異なる施設があるが、下流で浸水被害が起こらないように省庁を越えて検討すべき。  
⇒省庁を越えての対応はもちろんのこと、地域自治体や住民の方々の力添えをいただき進めたい。
- ・大滝ダムの操作については、貯水池を合理的に使うことが大切。近年、気象予測の高度化や流出計算も充実してきており、操作規則のあり方を検討すべき。  
⇒台風の終盤で降雨実績がある程度把握できた段階であれば、こうしたダム操作も可能である。
- ・河川整備計画（原案）では、戦後最大洪水による被害の防止を目標としているが、それらの想定を上回る対策も必要。  
⇒施設整備一辺倒ではなく、ソフト面を考慮した治水対策も盛り込んでいる。
- ・危機管理の対応は、河川管理者だけでなく、自助・公助・共助の地域の連携・体制が重要。河川管理者も単なる技術者だけではなく、社会的に説得力のあるソーシャルエンジニアとして対応することが大事。
- ・ダムの放流や貯水について、管理者によって情報がバラバラであり情報の一元化が重要。  
⇒日常的な河川情報を提供する体制の構築が必要。
- ・流域の森林保全については、関係自治体、地元住民だけでなく、国も関係するということ認識すべき。  
⇒森林保全に向けた自治体等の取り組みの中で、国も含めた関係者が一緒になって行うことが必要。

## 2. 今後のスケジュールについて

今後のスケジュールについて、河川管理者から説明があった。  
主な内容は以下の通り。

本日、第21回流域委員会において、河川整備計画（原案）が提示され、学識経験者の意見聴取が行われた。

今後、住民説明会等を行い、それらの意見を踏まえ、河川整備計画（案）を作成し、地方自治体の長の意見、関係行政機関との協議を行った上で河川整備計画を策定する。



## 3. 一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者からの意見無し。

※この議事骨子は、委員会終了後に速やかに審議内容が公開できる様に取りまとめたものです。従って、今後議事の詳録を作成する上において、修正等が加わることがありますがご了承下さい。

## ●紀の川流域委員会について

### ▼設置の目的

平成9年の河川法改正に伴い、これまでの「治水」「利水」に加えて「河川環境の整備と保全」が法の目的に追加されました。また、これまでの「工事実施基本計画」に代わって、長期的な河川整備の基本となるべき方針を示す「河川整備基本方針」と、今後20～30年間の具体的な河川整備の内容を示す「河川整備計画」が策定されることになり、後者については、地方公共団体の長、地域住民等の意見を反映する手続きが導入されました。

「紀の川流域委員会」は、紀の川において「河川整備計画」について学識経験を有する者の意見を聴く場として、平成13年6月7日に近畿地方整備局によって設置されました。

## ●委員会資料について

紙面の都合上、ニュースレターでは、委員会で使用した資料の掲載を省略していますが、ホームページで公開しております。

アドレスは、以下のとおりです。

URL : <http://www.kkr.mlit.go.jp/wakayama/>



## ●紀の川流域委員会の前回までの開催状況

2011.10.27 現在

年 月 日	会 議 名	内 容
2001.6.7	紀の川流域委員会設立会 第1回紀の川流域委員会	・規約の策定 ・23名の委員により発足 ・委員長に中川委員決定 ・委員会の情報公開、運営方針、今後の進め方について審議
2001.7.18	第2回紀の川流域委員会	・委員長代理に小田委員決定 ・各委員から「紀の川とのかかわり等」 ・紀の川の現状説明
2001.9.6	第3回紀の川流域委員会 (現地視察)	・現地視察 【紀の川本川(河口から五條市)】
2001.9.12	第4回紀の川流域委員会 (現地視察)	・現地視察 【大滝ダム・紀伊丹生川ダム】
2001.11.2	第5回紀の川流域委員会	・紀の川の現状説明 ・第3・4回現地視察に関する意見交換 ・情報公開方法の改訂について
2001.12.20	第6回紀の川流域委員会	・紀の川の現状説明 ・各委員からの質問に対する回答
2002.3.2	第7回紀の川流域委員会	・紀の川の河川整備計画について ・各委員からの質問等について
2002.4.25	第8回紀の川流域委員会	・紀の川の河川整備計画について(目標流量の検討)
2002.6.12	第9回紀の川流域委員会	・紀伊丹生川ダム建設計画について(報告) ・紀の川流域委員会勉強会運営方針(案) ・紀の川の河川整備計画について
2002.8.9	第10回紀の川流域委員会	・紀の川河川整備計画について(治水の現状と対策案) ・紀の川流域委員会勉強会の報告
2002.9.27	第11回紀の川流域委員会	・紀の川河川整備計画について(治水と環境対策) ・紀の川をとりまく環境について
2002.11.18	第12回紀の川流域委員会	・紀の川河川整備計画について(目標流量の設定) ・紀の川河川整備計画について(遊水地の検討)
2003.1.20	第13回紀の川流域委員会	・紀の川河川整備計画について (委員から出された意見等について) ・利水について
2003.3.20	第14回紀の川流域委員会	・紀の川河川整備計画について(治水対策の課題と対応策) ・第5回紀の川流域委員会勉強会の報告
2003.6.2	第15回紀の川流域委員会	・紀の川河川整備計画立案に向けての考え方について(治水編) ・大滝ダムの状況について
2003.7.28	第16回紀の川流域委員会	・関係住民の意見の聴取方法について ・岩出町の樹木について(報告) ・大滝ダムの状況について(報告)
2003.9.18	第17回紀の川流域委員会	・紀の川河川整備計画立案に向けての考え方について 【環境編】【利水編】【維持管理・利用編】
2003.11.19	第18回紀の川流域委員会	・今後の紀の川の河川整備に向けた説明資料 ・関係住民の意見の聴取について
2004. 3. 9	第19回紀の川流域委員会	・今後の紀の川の河川整備に向けた説明資料【第2稿】 ・大滝ダムに関する情報提供
2004. 6. 7	紀の川流域委員会審議報告	・紀の川流域委員会審議報告 ・紀の川の河川整備に向けての委員会提言
2006.11.22	第20回紀の川流域委員会	・今後の紀の川の河川整備に向けた説明資料【第2稿】からの変更方針

## ●紀の川流域委員会委員名簿

(五十音順、敬称略)

No.	氏名	対象分野	所属等
1	井伊 博行	治水・利水・環境（治水、水資源、水質）	和歌山大学システム工学部 教授
2	池淵 周一	治水・利水（水資源、水文循環工学、渇水災害、水文学）	京都大学 名誉教授
3	石橋 貞男	人文（経済）	和歌山大学経済学部 教授
4	今中 佳春	地域の特性に詳しい委員	元高等学校教諭
5	岩橋 健	人文（法律）	岩橋健法律事務所 弁護士
6	大谷 誠一	地域の特性に詳しい委員	五條青年会議所 OB
7	小川 和子	地域の特性に詳しい委員	玉川峡を守る会
8	神吉 紀世子	利水・人文（親水、水文化、地域、まちづくり）	京都大学大学院工学研究科 教授
9	旅田 一衛	利水（水道原水）	和歌山市水道局工務部水質試験課長
10	玉井 済夫	環境（哺乳類・爬虫類・両生類）	和歌山県自然環境研究会
11	土岐 頼三郎	環境（鳥類）	元（財）日本野鳥の会和歌山県支部長 日本貝類学会会員
12	中川 博次	治水・環境（河川工学、河床変動、水質）	立命館大学理工学部 客員教授 京都大学 名誉教授
13	古田 皓	地域の特性に詳しい委員	元テレビ和歌山取締役報道局長
14	的場 績	環境（陸上昆虫類）	和歌山県立自然博物館専門員
15	三野 徹	利水（農業）	鳥取環境大学環境情報学部 教授 京都大学 名誉教授
16	湯崎 真梨子	地域の特性に詳しい委員	和歌山大学地域創造支援機構 地域創造支援マネージャー

対象分野欄の（ ）は委員の専門を示しています。

編集・発行

紀の川流域委員会

お問い合わせ先

紀の川流域委員会 庶務

(国土交通省 近畿地方整備局 和歌山河川国道事務所 調査第一課)

〒640-8227 和歌山市西汀丁16番

TEL : 073-402-0265

FAX : 073-427-1859

E-mail : kino-ank@kkr.mlit.go.jp

URL : <http://www.kkr.mlit.go.jp/wakayama/>